

## H 1 5 . 7 . 2 3 設楽ダム猛禽類検討会 議事概要

日 時：平成15年7月23日(水) 13時00分～15時40分

議事概要：

表 H 1 5 . 7 . 2 3 設楽ダム猛禽類検討会の議事概要

議事項目	議事内容	委員の主な意見	意見に対する回答
1 .猛禽類検討会の設立について	・環境影響評価の手続きを進めるにあたり、環境委員会を閉会し、技術検討委員会を設立することを説明した。これに伴い、猛禽類部会を閉会し、猛禽類検討会を設立することについて説明した。	・猛禽類検討会の設立について了解した。	・事務局：特になし
2 .設楽ダム建設事業の進め方について	・設楽ダム建設事業に関わる今後の流れや工事の内容などについて説明した。	・クマタカ等動物への騒音の影響は検討するのが。ある場所ではヘリの騒音が問題となった。他ダムの事例を反映して評価できるのであれば評価してほしい。	・事務局：アセスでは騒音の影響は人に対するものだけを評価する。他ダムでは騒音計、振動計を設置して調査を実施している例がある。
3 .調査結果について	・平成15年までの調査結果について報告した。	・Aペアは枝先に造巣するタイプであり、このような巣は薄くてもろい特徴がある。	・事務局：特になし
		・Aペアは連続して繁殖に失敗し、現在使用の巣も崩壊しつつあることから、人工巣を設置してはどうか。	・事務局：今後検討する。 ・委員：クマタカの人工巣での繁殖成功例は聞いたことがない。
		・クマタカが繁殖しているときは、巣に執着するため、近傍で工事が行われていてもそのまま繁殖することがあり得るが、翌年の動向が問題である。他ダムにおける事例はないか。	・事務局：工事を行っている近傍で複数年の繁殖実績が報告されているCCDカメラ設置事例がある。
4 .今後の調査計画について	・今後の調査計画について説明した。	・今後の調査計画について了解した。	・事務局：特になし
5 .影響予測について	・影響予測結果について説明した。	・工事中は、工法や時期の対策をもって影響を回避可能と考えられるが、供用後で「影響がある」としたもののついて方策はあるのか。有効な方策がない場合、事業者としてどのように対応するのか。	・事務局：影響予測の考え方を再度整理し、「影響がある」としたものについては環境保全措置の検討でつめていく。
		・餌量の調査については、実行可能な項目について検討すること。	・事務局：実行可能な項目について検討する。
		・使用可能な機器・手法を積極的に用いて、より科学的な知見を得るように努められたい。CCDカメラを用いた調査もその一つである。	・事務局：今後検討する。
		・CCDについては、実施例を見学させてもらってはどうか。	・事務局：今後実施例の見学について検討する。